

朝起きて部屋を出るとすぐ霧切さんが話しかけてきた。ただいつもと雰囲気が違う……？

あつ、霧切さん……。おはよう

う、うん……。だって、昨日の夜もいつも通り……みんなが集まった後解散して普通に自分の部屋で寝た……。

……と思う……それがどうか……

そう……。それならいいわ。じゃあ今夜、一人で私の部屋に来て。誰にも見つからないようにね。

えっ……？ま、まってどういうことなのか説明……

苗木君。昨晚の事、覚えてる……？

……え？

なぜ彼女の顔を見てこんな感情になっているか、戸惑っている僕をよそに彼女は質問した。

「瞬そんな違和感をおぼえ彼女の顔を見た途端、胸を絞めつけられるような感情が込み上げてきた……。なんだろう……。これ……」

その言葉に、何故かひどい焦燥感を感じた。

「説明はその時するから」という言葉に遮られ、彼女は僕の前から颯爽と立ち去った……。答えは今夜……。確かめよう……。きっと大丈夫だ。



その日の夜……。僕は霧切さんの  
部屋へ向かった。廊下を歩きながら  
ふと今朝のことを思い出す。

……どうして彼女の顔をみた途端  
あんな気持ちになったんだろう……。

腹の奥が煮えたぎる  
ような、苛立ち。虚脱感。不快で  
反吐が出るような……絶望……。

……いや、考えすぎだ……。  
少しストレスでも溜まってる  
んだろう。そう言い聞かせながら  
もうすぐ彼女の部屋が目前に  
迫ったとき……

急に心臓の鼓動が早くなる。  
嫌な胸騒ぎと同時に  
部屋へ進むことを脳が拒絶する。  
……体は歩みを止めない。

……鼓動がさらに激しくなる。  
部屋に入ればもう後戻りできなく  
なる。絶対に良くない事が起こる。

何の根拠もなく、  
僕はそう確信していた……。

……扉の前に立ち、ドアノブに  
手をかけることで、震えは止まった。

そして……



扉を開けるとそこには  
霧切さんと大柄な男が  
僕を待っていた...

いらっしやい、苗木君。  
さあ入って。もう彼、我慢  
できないみたいだから♥

初めて聞いた  
普段の話し声より高く  
蕩けるような、甘い声...

...初めてのじゃな...  
前にも聞いたか...

...彼女の発言に  
「瞬間感い、すぐ  
理解した。」

ほら、服を脱いで。

私がされたみたい  
にたっぷり調教して、元  
に戻れなくしてあげる♥

勝手に身体が受け入れる。  
...心は初めから、諦めていた。

...分かりました...



よく聞いて♡あなたは私とご主人様のセックスのおモチヤなの♡

いいわね?♡余計なコトしたらタダじゃ済まないわよ。黙ってそこに座ってなさい♡

そういうと彼女はすぐに男の元へ駆け寄り跪き、股座へキスをし始めた。

ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡

チュ♡

チュ♡

足が終わったらケツも舐める。

ちゅ♡

ぶちゅ♡

しっかりと見せつけて脳裏に刻み込んでやれ。

あぁ...霧切さん...

ん♡

ん♡

ちゅ♡

ちゅ♡

はぁ♡

はぁ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡









はあ



ぷはあ



おっは...

うん...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...

おっは...





〜

72

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75

75























